

第18回資料紹介展

徳島の統計資料

期 間

平成11年11月2日（火）～平成12年1月30日（日）

徳島県立文書館

第18回資料紹介展

「徳島の統計資料」

ごあいさつ

皆さま、日ごろは徳島県立文書館の活動につきましてご支援をたまわり、誠にありがとうございます。

この度は、第18回資料紹介展「徳島の統計資料」を開くことになりました。県立文書館には、徳島県庁の公文書・行政資料のうち、歴史的価値のあるものを収蔵し、整理保存するとともに閲覧に供しております。公文書は1万2千冊、行政資料は4万5千点ほど収蔵されています。その中に、明治以降のさまざまな統計書が、5千冊ほどあります。

これらの統計書の中から、大正9（1920）年に行われた「第1回国勢調査」に関わる資料や明治13（1880）年から、戦中戦後の数年を除いてほとんど完全に残されている「徳島県統計書」を中心に、文書館収蔵の幅広い統計書の数々を紹介させていただきました。

統計書は、それ自体はほとんど数字の羅列であり、なかなか取っ付きにくいものですが、当時の状況を客観的な数字で表しており、時代を追ってそれらの数字を検討することによって、その時代の特徴を際立たせてくれる重要な資料となっております。とりわけ円グラフや棒グラフ、帯グラフ、各市町村別に地図化するという工夫によって、それをビジュアルに見ることもできます。

徳島県の人口・世帯・各世代の移り変わり、また米・麦藍作・養蚕・たばこ・野菜・そして畜産といった農業の状況と推移、養蚕とともに歩んだ製糸業をはじめとする工業の推移、電気・電話・自動車といった文明の利器の普及状況等々、これらの統計の中から読みとっていただければと存じます。

そして、そこから徳島県のあるべき方向をお考えいただく端緒となりますれば幸いに存じます。

平成11年11月2日

徳島県立文書館長

逢坂俊男

第1回の国勢調査

日本で最大の統計調査といえば国勢調査である。はじめて全国的に行われたこの調査は国・県・郡・市町村の行政挙げての大事業であった。

日本の国勢調査は大正9年10月1日午前0時を期して初めて行われた。国勢調査完成後、3冊本の「日本国勢調査記念録」という本が日本国勢調査記念出版協会から出されている。その緒言では「国家の施政方針は国勢調査の結果に依って始めてその基礎が定まる」とし「有史以来未曾有の挙国的大事業」という認識でこの調査が行われた。

国勢調査以前にも戸籍から人口などの統計をとることは行われていた。在留外国人等を含めた定時的な国勢全体を把握するため、諸外国の国勢調査との性格に比較できる統計を得るために、明治35年に国勢調査評議会評議員（前衆議院議員）内藤守三らによって議会で国勢調査に関する法律案が提出され同年12月1日法律が公布された。この法律の中では10年毎に行うこと以外は時期等については別に定めることになっていた。当然、明治40年代には1回目を行う予定になっていたが、明治37・38年に起こった日露戦争の経済的な打撃により大正9年まで約18年間も延期された。

実施機関としては内閣直属の「臨時国勢調査局」、諮問機関として内閣の中に「国勢調査評議会」が作られ、県・郡・市町村にそれぞれ機関が置かれた。さらに、陸海軍については陸海軍省、大使館・公使館・停泊中の外国船等は外務省、天皇家は宮内省、囚人等は司法省によって行われた。

徳島県では、内務部長を調査部長として、各郡市ごとに4名から17名の係員を置き、国勢調査の区数を3054区に分け、そこに一人の国勢調査員と予備員を置くという体制で行った。結果としてその時の徳島県の世帯数は140,696世帯、人口は670,219人、徳島市の世帯数は15,929世帯、人口は68,463人であった。

この国勢調査を成功させるために、行政機関は徹底的な普及・宣伝を行っている。ポスター・ビラはもちろん、スタンプ・絵はがき・宣伝講演会・宣伝演劇・宣伝幻灯会・宣伝行列・雑誌新聞の活用・調査人数の予想懸賞・調査資料の展覧会まで行い、考え得るかぎりのあらゆる手段を使って初めての国勢調査を人々に知らしめ成功に結びつけようとしていたことがわかる。

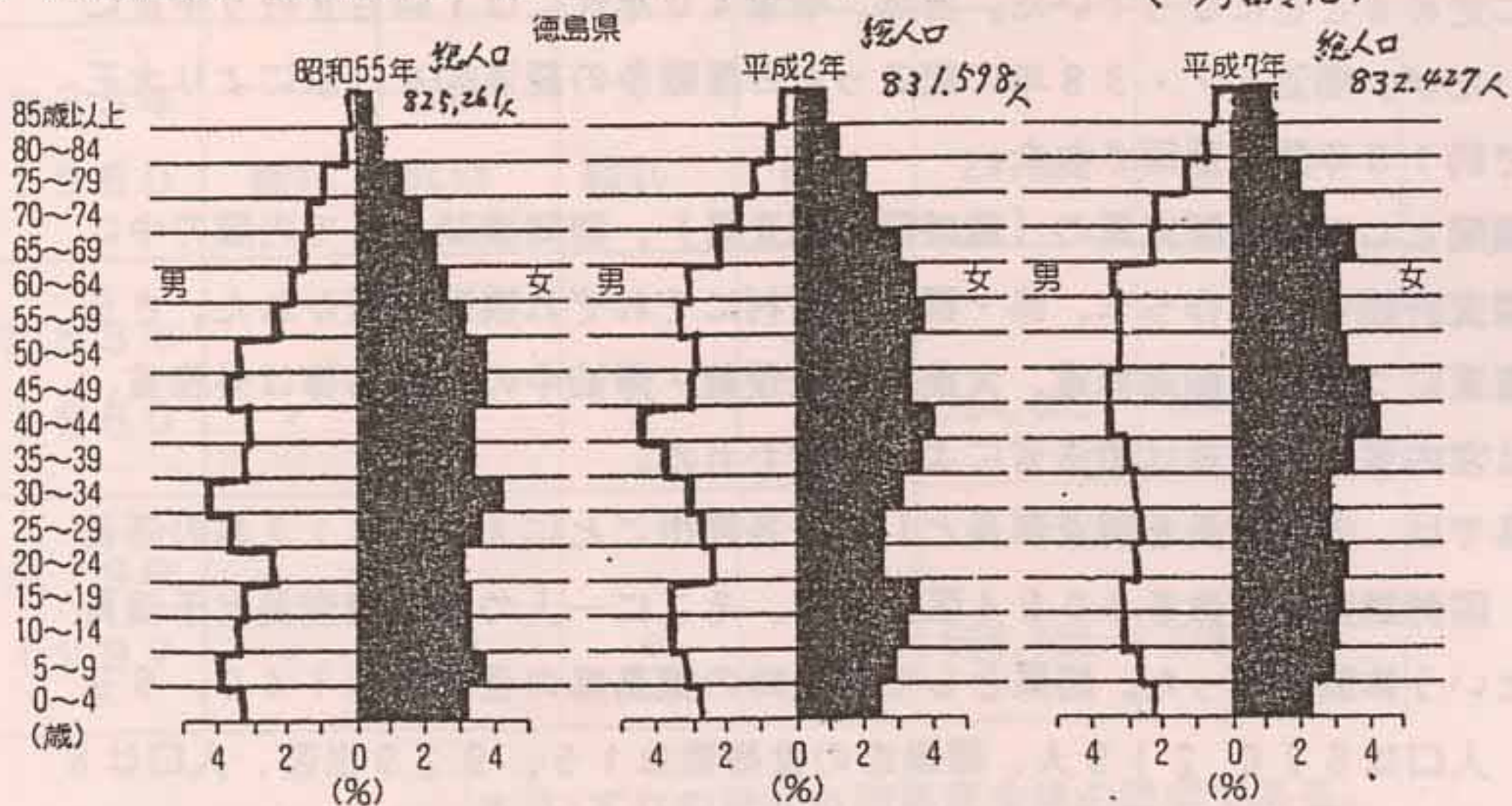
徳島県の世帯・人口

年度	(和暦)	世帯(戸)	総人口(人)	男(人)	女(人)
1881	明治14年	132062	642172	325417	316755
1900	33年	124885	689825	345659	344166
1920	大正9年	127145	724392	360817	363575
1935	昭和10年	145844	728748	362042	366706
1960	35年	182710	847279	408269	439010
1980	55年	240321	825261	395994	429264
1995	平成7年	274953	832427	395636	436791

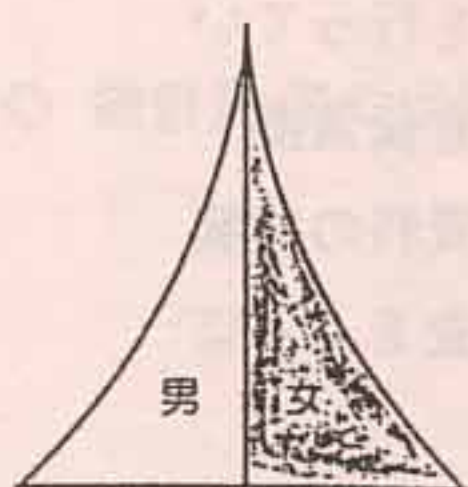
徳島県の人口ピラミッド

年齢(5歳階級), 男女別人口(昭和55年・平成2年・7年)

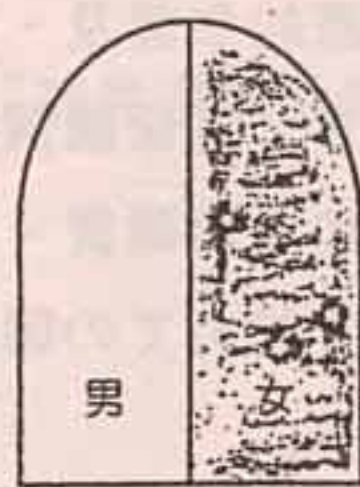
(少子高齢化)



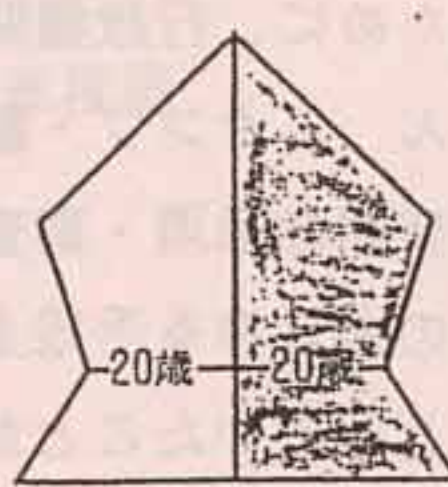
人口ピラミッドのおもな形



富士山型
(多産多死型)



つりがね型
(少産少死型)



農村型
(青年層が減少)



都市型
(青年層が増大)

※「統計グラフ作成の手引き」(徳島県企画調整部統計調査課)

および「県勢要覧」1998年版より引用・作成

文明の利器（車から自動車へ）

年 度	牛馬車	人力車	荷 車	自転車	自動車	5 乗用車
明治33年 1900	台 757	台 2,218	台 12,320	台 その他112か?	まだなかったとおもわれる。	
大正 9年 1920	1,064	1,209	21,795	23,488	台 44	台 不明
昭和10年 1935	1,739	74	21,453	87,855	統計なし	統計なし
昭和35年 1960	統計なし	なくなった のだろう	統計なし	統計なし	27,680	1,943
昭和55年 1980	"	"	"	"	324,002	184,418
平成 9年 1997	"	"	"	"	568,185	348,923

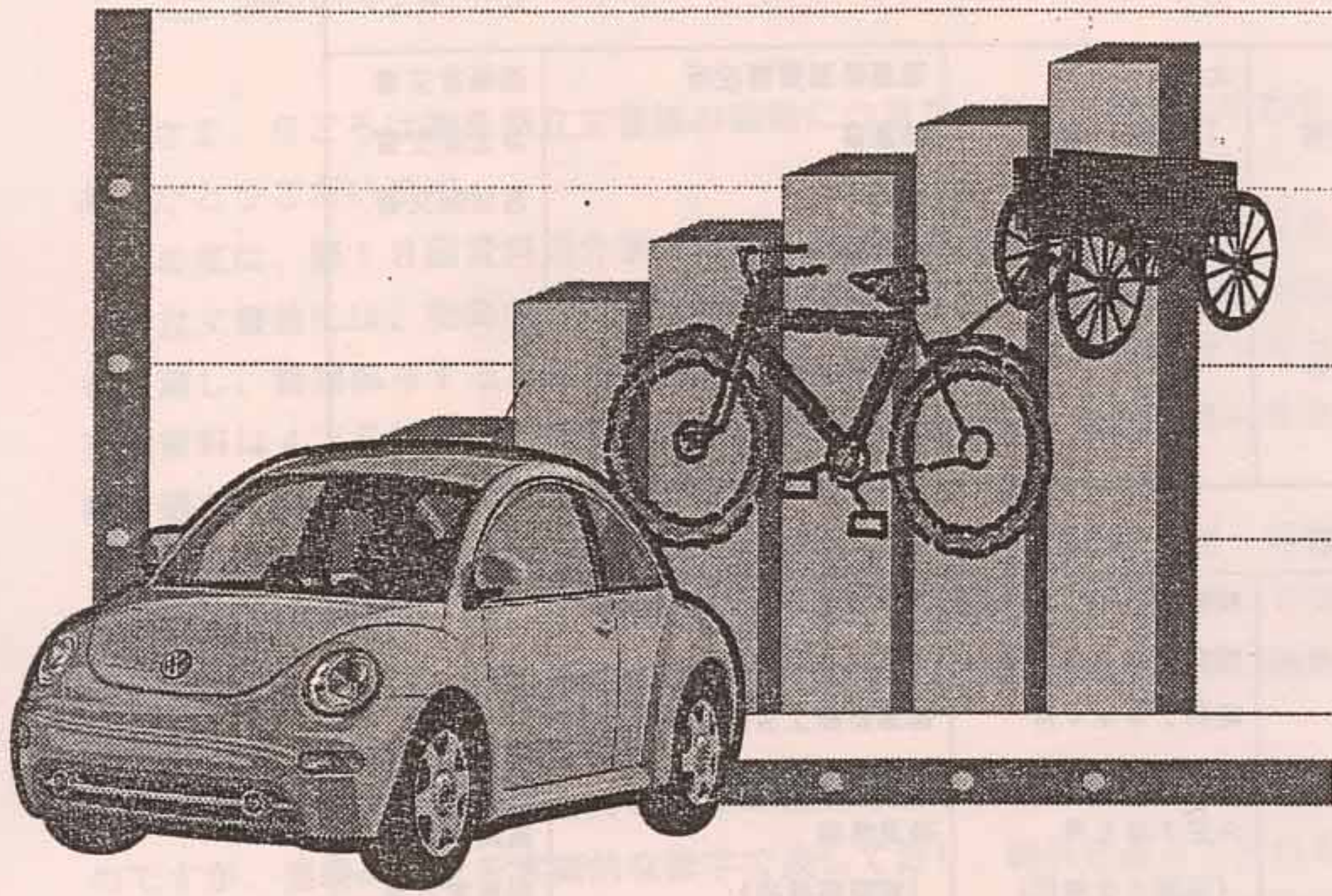
* いずれの統計も徳島県全体の数字である。

◇ 統計数字の出所；『徳島県統計書』各年度版

展示資料一覧

表 題	年 代	作 成	備 考
徳島県の統計書			
徳島県那賀郡統計書	大正5年9月	徳島県那賀郡役所	西崎家文書
身長・胸囲・体重統計表	(昭和17年)	徳島県	井上家文書
徳島県治一斑	明治41年	徳島県	宮住家文書
徳島県勢要覧		徳島県	
徳島県政一覧		徳島県	
統計で見る徳島のあゆみ		徳島県	
徳島県統計書		徳島県	
徳島県の統計関係資料			
徳島県地誌	昭和5年	葭本重雄著	
社会科参考阿波のすがた	昭和22年12月	徳島県教育会編	
徳島県の観光と産業	昭和28年4月	徳島県商工会議所連合会編	
徳島県之産業	明治42年11月	徳島県内務部編	宮住家文書
徳島県農業基本調査	大正7年5月	徳島県編	西崎家文書
徳島県板野郡勢一斑	(明治40年代)	(板野郡役所)	篠原家文書
国勢調査関係資料			
日本国勢調査記録 (国勢調査員任命書) (国勢調査事務要領)	大正12年1月 大正14年8月1日 (大正9年)	日本国勢調査記念出版協会 内閣	渡辺家文書 井上家文書
国勢調査報告 国勢調査記念章	大正9年	総理府統計局発行 内閣	太田家資料
国の統計書			
日本帝国統計年鑑	大正11~13年	統計局	
人口動態統計	昭和18・22年	厚生省	
農商務統計表	明19~大12年	農商務省	

・資料保護等のため、期間中展示資料を変更することがあります。



第18回資料紹介展
徳島の統計資料

発行 徳島県文書館

〒770-8070

徳島市八万町向寺山

電話088-668-3700

平成11年11月2日 発行